

Reborn

Vol.10 特別号

益城病院の新しい夜明け

Take Free

ご自由にお持ちください

益城病院
MASHIKI HOSPITAL

社会医療法人ましき会
益城病院
MASHIKI HOSPITAL

Contents

新益城病院が目指すもの	1
令和元年5月1日、新益城病院オープン！	2
人に優しく、災害に強く、地域に開かれた病院へ	4
計見一雄先生の講演を聴講して	5
新病院への大移動を振り返る／新病院がオープンするまで	6
どう変わる、こう変わる	8
看護の可能性を広げる新病棟	9
初めてのユニットケアに取り組んで	10
リハビリテーションのさらなる充実に向けて	12
多様化するリハビリテーションのこれから	13
美味しい病院食と働きやすさの両立のために	14
院内処方の大切さ	15
院内学会・研修一覧	16
職員往来・診療実績	17

基本理念

OUR PHILOSOPHY

社会医療法人ましき会は、患者さんとそのご家族に対し、
最善のプロフェッショナルサービスを提供し、
精神科医療の責任ある担い手として、
地域の医療・福祉・文化に貢献します。

患者さんの権利と義務

PATIENT RIGHTS AND OBLIGATIONS

1. すべての個人情報を守られます。
2. 医療上の情報について十分な説明を受けることができます。
3. 医療行為について自ら選択することができます。
4. ご自身の負担で、他の医療機関の医師の意見を聞くことができます（セカンドオピニオン）。
5. いかなる場合も人格的に尊重され、平等な医療を受けることができます。
6. 適切な医療のために必要な情報を伝え、主体的に治療に参加してください。
7. 病状の改善及び共同生活を維持するため、規則や指示を守ってください。
8. 医療にかかった費用を支払う義務があります。

職員の倫理

ETHICS OF STAFF

1. 益城病院の基本理念・行動指針を自己の行動規範とします。
2. 医の倫理を踏まえ、患者さんの権利を尊重し、希望のもてる医療を行います。
3. 仕事に誇りを持ち、全ての患者さんに公平・平等な医療を行います。
4. 質の高い医療を提供するため、自己啓発に努め、自身の健康増進に努めます。
5. 温和で謙虚、協調と礼節を重んじ、患者さんや地域からの信頼を得よう努めます。

5つの誓い

FIVE OATH

1. 私達は、精神科医療を通じて社会貢献に努め、社会医療法人としての公益的使命を果たします。
2. 私達は、こころを病む人々に対し、尊厳を損なうことなく、心身の健康づくりに努めます。
3. 私達は、こころを病む人々が、地域で安心して暮らせる環境づくりに努めます。
4. 私達は、お互いの立場を尊重し、働きがいのある職場づくりに努めます。
5. 私達は、医療の質を高めるため、日々、自己研鑽に努めます。

新益城病院が目指すもの

理事長 犬飼 邦明

「最新の病院でもせいぜい30年しかもたない」とは、1993年、旧益城病院建設計画に着手した時、念頭においた言葉です。RC(鉄筋コンクリート造)の建物の耐用年数は47年ということになっていますが、機械設備の寿命はせいぜい15年程度。30年も経てば、病棟なども医療環境の変化にマッチしなくなる、と踏んでいました。実際、私たちは2013年頃から病棟ユニット化に向けて改修計画を始めていました。熊本地震による壊滅的被害がなかったとしても25年経過した構造物は、建て替えの時期にさしかかっていたといえます。

ともかく、2016年4月の熊本地震発災から丸3年で、新益城病院復興工事が完了し、このほど無事移転を済ませました。災害復興補助事業のため、「完成引き渡しは2019年3月末まで」という厳しい条件が付いており、総面積3500坪を超える建物を、着工から竣工までわずか1年で仕上げるという神業に近い工事になりましたが、順調に工事が進むことを前提に、秋頃には引っ越しを2019年5月1日と決めました。新天皇即位による新元号への改元がこの日に決定したのは、そのずっと後のことでした。

新病院構想の基本においたのは、「緑と水にあふれた」「地域に開かれた」「個室化・ユニット中心の」「災害に強い」病院でした。基調色を考えた時、光と影の画家フェルメールのブルーを選んだのは単なる思いつきでしたが、初めて屋上に上った時、間近に望む阿蘇方面からの東風が心地よく、「風のテラス」「風のガーデン」という名前は、その時に思いつきました。とはいえ、この先強風には悩まされそうです。

これまで6つの建物に分散していた機能を一つにまとめたため、6階建てになってしまいました。3階以上が病棟で、上から見ると「H」の形をしており、各階東西南北4つの「ウイング」からなっています。1単位は12～15名の入院患者数となり、これまでの多床室、大集団でのアプローチから、個室中心、少人数グループへの転換を目指しています。スタッフの動線もほぼ上下動だけで済むようになりました。植栽には特に力を入れ、ご支援いただいた皆様の銘板を遺しております。これまで以上に院庭散歩する患者さんの姿を目にするようになりました。これから、ユニットリーダーを中心に各病棟や各ウイングの役割を明確にして、「PLAN2020」の実現に向けて動き始めようとしています。そして、精神科医療・介護・福祉の包括的な地域展開ができればと考えています。



令和元年5月1日、新益城病院オープン!

① メインエントランス

open 8:00 ~ close 19:00
(日祝は17:00まで)

② 風のテラス



吹き抜けとガラスサファードの採光による開放的な空間は、緑を眺めながらくつろげるカフェ・ギャラリーとなっています。パン工房「まりも」のパンも販売。

営業時間 7:00 ~ 14:00

③ 風の架け橋



勉強会や研究会などの多目的ルーム。通常は熊本地震被災から復興までの歩みなどの資料を展示しています。お気軽にお立ち寄りください。

④ 総合受付・会計

⑤ 子ども外来



専門医と公認心理士が協力して、お子様と保護者のために医療・心理支援を行う子ども外来。専用の待合スペースが用意されています。



1 階 マ ッ プ

⑥ 外来待合



明るく開放的な待合室は、屋外の木々や噴水を眺めながらリラックスできる環境です。

⑦ 薬局

院内処方の方は、こちらでお薬をお受け取りください。

⑧ 歯科

診療は毎週水曜と金曜です。受診希望の方はお電話にてご予約ください。

⑨ 売店

営業時間 平日 9:20～16:40
土曜 9:20～13:30
日祝休み

⑩ 精神科デイケア



在宅生活の維持とステップアップを目指す多彩なデイケアプログラムをご用意しています。

デイケア／月曜～金曜 9:30～15:30
ショートケア／月曜～金曜 9:30～12:30
12:30～15:30

⑭ デイケアホール（体育館）



入院患者さんやデイケア利用者のスポーツ活動をはじめ、院内イベントなどに広く活用できる体育館。大規模災害時の避難受入も想定した設備です。

⑪ 認知症デイケア



機能訓練やレクリエーションを通して利用者の支援を行います。送迎バスもご用意しています。

デイケア／月曜～金曜 9:30～16:00

⑮ 理美容室

⑯ ましきの森



四季を彩る十数種類の木々と草花の植栽の間に、散策を楽しめる小径を設けました。樹木名のプレートに表示されているQRコードをスマートフォンで読み取ると樹木の種類や詳細を見ることができます。

⑫ 救急外来

当院では24時間精神科救急の受付を行っています。

⑬ サブエントランス（救急受付入口）



夜間の救急外来入口となっています。来院の際は自動ドア横の電話で職員へご用件をお伝え下さい。

⑮ 理美容室

ホール
エントランス

⑬ ▲ サブ エントランス 救急受付入口

⑯ ましきの森

⑰ シャトルバス停



新病院と旧病院を往復するシャトルバスは1時間に1～2便運行しています。時刻表はバス停、総合受付などに掲示しています。

人に優しく、災害に強く、地域に開かれた病院へ

新元号「令和」とともに、益城病院は新たなスタートを切りました。
熊本地震からわずか3年、急ピッチで完成に至った新病院。
その設計に込められた思いをどのように受け止め
維持管理していくのか、施設主任に聞きました。

トータルで目指したのは、人がホッとくつろげる空間づくりです。カフェとギャラリーを兼ねた「風のテラス」や雑木林の散策路「ましきの森」、水盤など、居心地の良さを追求しました。風の音と水の音が混じり合う新しい病院には、旧益城病院ともひと味違う癒しがあると思います。また、屋上や病棟の窓からは、阿蘇や金峰山までの素晴らしい眺望が広がります。開放的で明るい風景が入院中の患者さんに少なからず良い影響を与えているようで、想像を超えた自然の力に驚いています。

安らぎのある居場所であるためには、建物の強さや災害への備えも重要です。熊本地震の教訓を活かして、震度7の地震でも構造体の大きな補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、一般的な建物の1.25倍以上の耐震性能を確保しました。また、被災時にも3日間耐え抜ける備えに重点を置き、給排水や電力供給も見直しました。

- 通常使用する井戸水以外に、災害時のバックアップ用の上水道を引き込み、配管には、衝撃にも強い可撓(とう)性の高い素材を用いています。
- 排水は、建物一体構造の貯留槽を経由して下水道へ放出する仕組みで、約80トンの容量を持つ貯留槽によって、下水道が使えなくなっても3日程度は大丈夫です。
- 電気の高圧配線は、地震時に断線の恐れがある地中配線を避け、架空配線を採用。非常用発電機は、停電発生後約30秒で電力供給が可能となり、通常時の5～6割を賄える発電容量があります。また、3日分相当の燃料（重油）も備蓄しています。



↑ 定例建築会議



↑ 1階医事と2階事務所をつなぐ階段と吹き抜け

熊本地震で被災し、患者さんを引き受けていただいたこと、全国からご支援を頂いたことへの感謝の気持ちは決して忘れません。いつどこで発生するかわからない大規模災害時のために、熊本地震の経験を活かした精神科災害拠点機能、災害支援機能を備えました。ディケアホール（約570㎡）に備蓄倉庫を設け停電時でも稼働できる空調設備など、想定できる限りの備えを設けました。患者さんやご家族、職員、そして地域の方々の心のより所となれる病院を目指し、緊急時に職員が柔軟に対応できるよう、マニュアル化や訓練にも力をいれていきます。また、日常的な保守・点検管理業務を怠らず、万が一の時にきちんと機能するよう管理したいと思います。

（談：法人事務局 施設主任 村上誠一 記：ライター 堀地久美子）

益城病院 MASAKI HOSPITAL



計見 一雄 (けんみ かずお) PROFILE

1939年生まれ。千葉大学医学部卒業。医学博士。千葉県精神科医療センターの設立に参画。現在名誉センター長。公徳会佐藤病院顧問。

精神科救急医療という分野の開拓者で、日本精神科救急学会初代理事長。主な著書に『統合失調症あるいは精神分裂病』『ここは内臓である』(講談社)、『戦争する脳』『現代精神医学批判』(平凡社)、『インスティテューショナルリズムを超えて』(星和書店)、ほか多数。

精神科救急における私たちの使命 ～ 計見一雄先生の講演を聴講して ～

副院長 渡邊 信夫

益城病院復興記念講演会に、千葉県精神科医療センター名誉センター長・日本精神科救急学会初代理事長の計見一雄先生をお招きしてご講演いただきました。

計見先生は、今回の講演の中で、急性期を速やかに終熄させて、元の住まい・職場・学校に戻ってもらい、そこでの生活が維持できるように、医療的・福祉的援助システムを構築すること、再発、再入院を過度に恐れず、必要なら速やかに再入院させることを厭わないことが肝要と話されました。さらに、今後は精神疾患への救急医療の「充実」の中身が問われるであろうと指摘されました。

先生は、精神科救急病棟のモデルとなった千葉県精神科医療センターを1985(昭和60)年に設立され、平成時代の日本の精神科医療を変革して来られました。その発想の原点は、当時の「慢性」「長期」「収容」を目的とする精神病院群への反発であり、これを「治療」を目的とする病院群に再編するということにあったことが伺われます。

千葉県精神科医療センター開設から30余年を経て、当院でも、昨年、精神科救急病棟の認可を受けました。今後は、この病棟を中心に急性期の病状を早期に改善する治療技術を向上し、関連施設とのさらなる連携を図り、外来通院治療支援体制の拡充など多くの課題を克服すべきことを再認識しました。

計見先生には、1995年の当院の改築の時から幾度となくご指導いただき、熊本地震後は、再建へのご支援を頂きました。改めて感謝の意を表します。



↑新しい体育館で多くの来賓の方々が聴講

新病院への大移動を振り返る

法人事務局 課長 佐伯 貴志

2019年5月1日午前11時過ぎ、移送の患者さんの送り出しが終了しました。降っていた小雨も上がり、その場にいたスタッフは手をたたき歓喜に沸きました。

2018年7月に引っ越しの担当者会議を立ち上げ、理事長からの提案があった虹の七色（赤橙黄緑青藍紫）を移転先のカラーに色分けして各階に振り分け、各部署での準備が始まりました。設計・建築と並行スケジュールであったこともあり、立体的なデザインがほとんど見えない状況でした。病院各所を何度も巡回し、色やサイズをイメージしながら既存備品を各階の用途別に仕分けするのは大変苦しかったです。

また同じように患者さんの移送が大きな課題で、事故なく搬送するための移送方法、周辺手荷物、食事、ベッド…など病棟部門と幾度も検討を重ねました。効果的だったのは、移送直前に見学を兼ねたシミュレーションを行ったことであり、当日のイメージがしやすかったように思います。フロアごとに色分けしたビブスの着用、ユニットごとにはリストバンドで色分けをし、無線の活用、雨天時の想定なども行って、課題を打開策につなげていくことが、また移送に際してマイクロバスが借用できたこと、ご協力いただいた弓削病院、明生病院、あおば病院、八代病院さんからのご厚意があって、スムーズに移送が完了できたことが大きな要因だったと思います。改めて御礼申し上げます。

地震から移転までのことは筆舌に尽くせないほど多くの事がありました。中でも、如何に組織力と指揮系統が大事であるかを痛感しました。この経験を地震対応だけの過去のものとするのではなく、この組織の対応力を今後いかに活かしていくか、大きな課題だと感じています。

これまで、多くの皆さまからご支援やご協力、激励などを頂いたことに深く感謝しております。今後とも、引き続きよろしくお願い申し上げます。



事務局は段ボールの山



患者さんは防災バッグに各自の私物をいれて運びました



ベッドも大移動



引越用ラベル 引越先の階数は赤橙黄緑青藍紫で色分けされた



新病院到着



患者さんが着用するビブスは入院フロアごと色を変え、間違いを予防

新病院がオープンするまで

2019年4月20日（土）、新益城病院の落成式が厳粛かつ盛大に開催されました。ご多用の中、300名を超える方々にご臨席賜るとともに、過分なお心遣いをいただき、ありがとうございました。

式典の成功に向けて念入りな準備をし、職員が一丸となった結果、盛会に終えることができた感慨深く感じています。

法人事務局 事務次長 宮崎 翔



呈茶席担当スタッフ



沢山のお花をいただきました



御祝いでいただいた
沢山の胡蝶蘭



随所に生花を展示しました



支援感謝の碑



栄養管理科見学



軽食会場も大盛況でした



「支援の樹」の植樹



落成式理事長挨拶



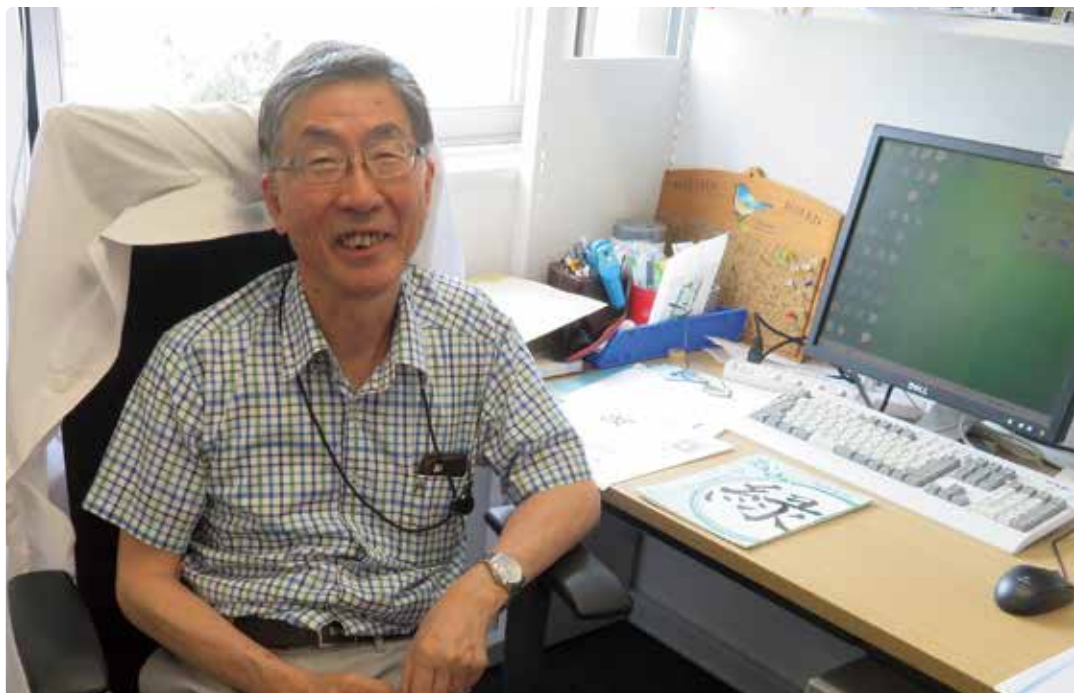
来訪者の方へ記念品をお渡ししました



パン工房まりも落成記念お菓子セット

どう変わる、こう変わる

医局 診療部長 宮崎 知博



新病院の医局や病棟から窓に目をやると、実に開放的な景色が飛び込んできます。山まで見える病院は気持ちがいい。実際は、色々と使い勝手や設備関係の不備があり改善点は多いのだけど、その中で方向音痴の僕は、病棟で迷ってウロウロしています。

診療は、すでに5月1日から動き出し、外来も、令和に変わった連休明けの5月7日に始まりました。それで、これからどう変わるのか？そう急に大きく変わりはないとは思わず、焦って変わることもなかろうと思います。

一番これからも大事にしていく必要があるのは、やはりチーム医療でしょう。どこかの部門だけで解決しない事の多くが、多職種の協力でなんとかやれています。できれば、難しいケースはもっと積極的に、職種間の枠を

越えた相談の場を作った方がいい。たとえば、認知症では病院枠も越えて地域の支援会議があるように、忙しいのは今でも十分忙しいが、その方向性は目指したいものです。今後ますます、病院が家族としての側面も担っていくことが否応なしに増えていくと思われるし、高齢化に伴う独居や、親族がいないのと同じ状況の患者さんを支えていくためにも、みんなの知恵と行動力が必要でしょう。

あの熊本地震から丸3年が経過したものの、窓からはもう一つの景色、仮設住宅が目に入ってくる。熊本の地で医療をやっていくには、この地震の影響はまだまだ続くだろうし、その特殊性と日常を継ぐ力になれるよう、スタッフと歩みたいと切に思う日々です。

看護の可能性を広げる新病棟

看護部長 金子 元子

地震から3年、県内をはじめ、全国の皆様からの物心両面に渡るご支援に支えられ、職員一丸となって病院を復興することができました。ここに至るまでには、多くの困難があり、一時は病院の再建が危ぶまれた時期もありましたが、2019(令和元年)5月1日に復興工事が完成し移転致しました。

入院診療においては、移転前から精神科医療ニーズの多様化に合わせ、個室化、ユニット化を進め、プライバシーに配慮した治療環境の下で、少人数、小集団への関わりを目指してユニットの試行を行ってきました。今年の1月、各ユニットに、ユニットリーダーが任命され、旧病院から新病院への移行の準備がすすめられました。

新病棟は、すべてユニット構造となっていて、1つの病棟が3ユニットから4ユニットで構成されています。移転後、新しい環境の中、入院患者さんは、各ユニットで穏やかに過ごされています。個室の先には、他の患者さんやスタッフと交流できるリビングルームがあり、窓からの景色を楽しみながら、憩いの場

となっています。ユニットの目標を立て、各々が目指す形を模索しながら、環境調整を行っています。

まだまだ課題もあり、取り組みも始まったばかりですが、個別少人数での看護を目指し、医療・介護・障害者福祉の連携強化と地域包括による在宅診療の拡充、広域的な医療支援に継続して取り組んでいきます。



↑和をイメージしたリビングルーム



↑適温で配膳される給食は患者さんにも好評



↑病棟カンファレンス



↑プライバシーを確保した大部屋

初めてのユニットケアに取り組んで

ユニットケアのメリットと課題

A(精神科救急)病棟ユニットリーダー主任 福満 小百合・本山 智子

A病棟は、アルコールユニット(東)、精神科ユニット(南)、ストレスケアユニット(北)、高齢者認知症ユニット(西)の4つに分かれています。疾患別に分かれたことで各ユニットのカラーが明確になり、同レベルの患者さん同士で会話が増えるなどの効果が現れ始めており、病棟全体に落ち着きが出てきたように感じます。

新病院への移転以前から、徐々にユニットケアへの取り組みを進めていたため、スムーズに新システムに移行できたと思います。しかし、その一方で、実践してみて初めて見えてくる事もあります。少人数対応になり患者さんのニーズが見えやすくなったのはメリットですが、独立性が高まったことで、他のユニットで起こっていることが把握しづらくなりました。特に、介護・介助の手を多く必要とする高齢者認知症患者さんへの対応など、以前は病棟全体で助け合えた場面でも臨機応変のサポートが難しい現



福満ユニットリーダー主任



本山ユニットリーダー主任

状があります。病棟全体の申し送りがなくなりカンファレンスも縮小される中、いかに横のつながりを密にして情報を共有するかが今後の課題です。

とはいえ、まだ慣れないこともあって病棟機能をフル活用できてはいえませんが、スタッフ同士協力し合い、状況に応じてユニット間を横断的に利用したりしながらお互いの可能性を最大限に引き出し、患者さんにとってより安全で快適なユニットケアを目指します。

心ゆたかな患者さんの生活のために

B(精神療養)病棟ユニットリーダー主任 阪本 浩資

ユニットの導入により、患者さん同士の距離感が保てるようになりました。個室の増加やプライバシー保護を重視した病室の構造もストレス緩和につながっており、トラブルやインシデント件数は明らかに減少しました。さらに、和を基調とした快適なリビングと窓からの雄大な眺めのおかげで、患者さんの表情は明るくなり、ユニット全体が穏やかな状態に保たれています。スタッフにとっても、モニターによる死角の減少、防音効果の高い保護室による奇声や騒音の軽減など、安心して働ける環境になっていると思います。

個浴・介助浴の増加や夜勤時の個別対応など、限られたスタッフで密度の高いケアを行う難し

さもありますが、患者さんへの関わりが質・量ともに充実することが、ユニットケアの最大の利点です。もっと行動制限を少なくし、隔離室の患者さんにも音楽や映画鑑賞などの時間を提供できないか、一人ひとりが心ゆたかな生活を送れるために何ができるかと、苦心する毎日です。今後は作業療法や、より要望の多い活動など取り入れながら様々な事にチャレンジします。



阪本ユニットリーダー主任

長期入院患者さんの退院をサポート

C(精神療養)病棟ユニットリーダー主任 米村 孝史

C病棟では、症状の軽快が見られる患者さんに対し、日常生活指導や社会生活機能訓練（SST）などを通して自立支援の取り組みを行っており、東・南ユニットでは、コスモやグループホームへの早期退院を目指しています。患者さんが同じ目標を持ち、生活能力や精神症状が近い方がユニットで一緒に暮らせるようになったことで、不要な争いや粗暴な行動をとる患者さんが減りました。また、固定したスタッフが接するため、患者さんが安心して自己開示でき、コミュニケーションが増えるなどの好結果が得られています。高齢者が多い北・西ユニットでも、少人数対応により目が届きやすくなったことで、転倒などのリスクが減り、一人ひとりの生活リズムや排泄パターンなどが把握しやすくなりました。

明るく家庭的なリビングもプラスに働き、部屋に引きこもりがちな患者さんが少なくなりました。スタッフの気分も一新した今、掲示物を患者さんと一緒に作ったり、要望のある本を揃えたり、毎日の生活がマンネリ化しないよう心掛けながら、できるだけ自宅に近い環境づくりに力を入れ、患者さんの一日も早い退院と地域での安心な暮らしを目標にサポートします。



米村ユニットリーダー主任

個を尊重したアットホームな病棟へ

D(認知症治療)病棟ユニットリーダー主任 榮永 紘之

以前は回廊型のフロアだったため、散歩による足腰の鍛錬と心を落ち着ける効果はあったものの、様々な段階や症状に応じたアプローチ不足を感じていました。今回、精神症状に応じて3つのユニットに分かれたことで、個室を有効に利用し、様々な活動を取り入れ散歩やおやつなどで気分転換を図っています。また、理学療法士の採用によりハイリスクの患者さんや身体機能の落ちた方などへの対応もきめ細かくできるようになりました。

移転前、香川県の西香川病院の先進的な取り組みを見学する機会がありました。そこには、バンガローのような木の温もりのある空間に对面キッチンが設けられ、病院とは思えないアットホームな雰囲気でした。患者さんとスタッフの距離が近く、気持ちよさそうにくつろいで過

ごす患者さんの姿が印象的で、まさに当院の将来ビジョンが具現化されていました。そこに一步近づいたのが、今回のユニットケアの導入です。従来の型から抜け出し、料理や園芸など、患者さん一人ひとりの生活歴や職業経験に即した活動や院内行事に取り組む予定です。また、この豊かな自然環境を活かし、屋外の活動で散歩を楽しむなど季節感を感じられる暮らしの流れを、ご家族にも協力を仰ぎながら創り上げたいと構想しています。



榮永ユニットリーダー主任

リハビリテーションのさらなる充実に向けて

デイケア科科长 本田 隼人

病院の新築に伴い、デイケア科では点在していた活動場所やスタッフルームが集約され、情報共有や連携がよりスムーズになってきました。移転による環境の変化や新しい機能などに慣れない状況ではありますが、移転前から行っていた支援体制の検討を継続し、これまでより細やかで充実したデイケアの提供を目指しています。

認知症デイケアでは、環境や支援内容について見直しを行いながら、その人らしさを保てるよう、お一人おひとりに合わせた支援に日々取り組んでいます。精神科デイケアでは、

利用者の疾患の多様化が課題です。地域で安定した生活が送れるよう、目的や目標に応じたグループ活動の実施、個別対応の強化を行っています。

また、高齢者の増加とともに身体機能の低下によって生活に支障をきたしている方が増え、身体機能面への支援の拡大が重要となっています。そこで、5月には理学療法士を採用。機能向上や廃用症候群の防止に向けた身体機能訓練活動プログラムにチームで取り組み、より充実したリハビリテーションを展開してまいります。



↑理学療法士による身体機能訓練



↑音楽活動の様子



↑フラワーアレンジメント作成



↑「デイケア新聞」作り

多様化するリハビリテーションのこれから

作業療法室主任 前田 真有美

「令和」という新元号を新しい病院で迎えました。新緑に囲まれた洗練された建物、各病棟はユニット化され、和を基調としたリビングルームを中心に家庭的な雰囲気となりました。入院部門には作業療法室が各階にあり、ゆっくりくつろげるリラゼーションの部屋、防音やAV機器を設備した部屋、創作や作業ができる洋室が整備されたことで、環境をかえてできる活動、目的に応じた作業療法を提供できることを嬉しく思います。

“人は作業をすることで元気になれる”という言葉をモットーに、心身の回復と低下の予防を目指して、様々な作業活動を実施しています。作業能力や人との付き合い方をアセスメントし、退院に向けて必要なプログラムを提供、小さな達成感を積み重ね、自信の回復を促すことが私たちの役割の一つです。また療養病棟では退院後の生活がイメージしやすいように、退院先の宿泊型自立訓練事業所と合同で心理教育やSSTを実施し、他職種とともに退院に対する不安を取り除くことに関わっています。

最後に、地域包括ケアシステムが構築される中、利用者がその人らしく地域で暮らすことができるよう早期退院・地域定着に向けて、専門職として頼りにされるよう、更なる質向上に努めます。



↑ 塗り絵作業



↑ 創作活動



↑ カラオケの様子



↑ 体育館でのグラウンドゴルフ

美味しい病院食と働きやすさの両立のために

栄養管理科科长 井上 さとみ

新しい厨房運営に向けて、栄養管理科では2018年4月から毎月「新厨房ミーティング」を行ってきました。“働く環境の改善”をコンセプトに設計が進められ、栄養科スタッフの要望を取り入れていただいた図面が出来上がり、次は其中でどう効率的に動くかシミュレーションを繰り返し、移設する厨房機器や備品は何処に置こうか、また、業務工程や分担等々、17:00からのミーティングは、休日の人も顔を揃え白熱したものになりました。

今までは、水分を含んだ重たい生ゴミを階下まで運ぶのが大変でしたが、今回設置された生ゴミ処理機は、投入した生ゴミが水に分解されて排水できるという魔法の箱です。



明るくて広い洗浄室です。食器洗浄機も最新型で、排気熱はすべて再利用され、湯気漏れも抑制、洗浄室内の温度・湿度が大幅に改善されました。将来は、就労訓練の場として提供できればと思います。

新しい調理器も導入され、高速加熱、正確な温度管理、調理の自動化が可能になり、出来上がった大量の料理もボタン操作だけで安全に取り出すことができます。ハンドシャワーも装備されており、調理器使用後の洗浄作業が簡単になりました。



全国的に給食スタッフの不足が問題となっている中で、益城病院では早番や遅番の時間帯でも育児室が利用できるため、新卒で入職したスタッフがママになっても継続して勤務することが可能で、経験を積んだ若いスタッフが多いことも当栄養管理科の特長です。

今まで職業病だから仕方がないと言っていた腰痛・膝痛が軽減するよう、また、若いスタッフも安心して定年まで勤務できるよう働く環境が改善された厨房です。この新しい厨房で、今までのバイキング給食に代わる新しい行事食を構築し、皆さんに喜んで食べていただける食事の提供をスタッフ一丸となって目指していききたいと思います。

院内処方の大切さ

薬局長 原 幸輔

新しい薬局は、面積約60㎡を確保され、広々とした調剤室に加えて医薬情報室（DI室）及び注射薬準備室を設け業務を開始しました。

地震後から、外来患者さんのための利便性等を考慮し要望に応じてきた結果、院外処方から院内処方への切り替えが徐々に増加して、本年4月には90%を超える処方率に至りました。併せて調剤業務も大幅に増加し、その対応に苦慮してきました。

そのため、外来・入院共に対応していくには人的充実が不可欠となり、薬剤師を増員して、現在、薬剤師5人、事務職1人の6人体制で業務に取り組んでいます。また、効率的な調剤の必要性から、ハード面においても今回の移転を機に古い調剤システムを一新して、最新の自動分包機も導入し、安定した対応ができるようになりました。

外来の院内処方は、患者さんと直接向き合っ
て服薬指導ができるため、服薬の状況等もよく分かるようになり、また、患者さんからも喜びの声を多く聞くことができ、やりがいと院内処方の大切さを感じています。

患者さんが適切な薬物治療を受けるための重要な役割を担っていることを念頭に置いて、医薬品の安全性・有効性の確保を最優先し、調剤過誤のゼロを目指します。今後、病棟での服薬指導等にも積極的に出向き、患者さんの近くにいる薬剤師として、さらなる医療サービスに努めていく所存です。



↑筆者 原薬局長



會

院内

DCMユーザーフォローアップ研修in熊本

院 外 (1月~6月)

その他研修会等（医師・栄養士・臨床心理士・薬剤師など多数参加）

※他にも院内外でさまざまな研修・勉強会等に参加しています。

支援感謝の碑

職 員 往 来

2019年2月1日～2019年6月16日

新しい職場でがんばっています。よろしくお願いします。

氏 名	氏名(カナ)	入社年月日	所 属	職 種
鈴木 一史	スズキ カズミ	2019/02/01	A病棟	看護師
岡留 由貴子	オカドメ ユキコ	2019/02/01	B病棟	准看護師
倉元 涼子	クラモト リョウコ	2019/04/01	医局	医師
上野 達郎	ウエノ タロウ	2019/04/01	医局	医師
小島 拓	コジマ タク	2019/04/01	医局	歯科医師
柏尾 文美	カシオ フミ	2019/04/01	薬局	薬剤師
荒川 瑠美	アラカワ ルミ	2019/04/01	A病棟	看護師
吉田 アユミ	ヨシダ アユミ	2019/04/01	B病棟	看護師
栗屋 玲子	クリヤ レイコ	2019/04/01	C病棟	看護師
田中 紀美子	タナカ キミコ	2019/04/01	C病棟	看護師
面高 康成	オモタカ ヤスナリ	2019/04/01	訪問看護ステーション	看護師
堤 明子	ツミ アキコ	2019/04/01	訪問看護ステーション	看護師
光澤 大志	ミツヅカ タイシ	2019/04/01	B病棟	准看護師
栗山 司士	クリヤマ カシ	2019/04/01	C病棟	看護助手

氏 名	氏名(カナ)	入社年月日	所 属	職 種
伊豆丸 聖乃	イズマル ホノノ	2019/04/01	D病棟	看護助手
斉藤 直人	サイトウ ナホト	2019/04/01	A病棟	作業療法士
高橋 直美	タカハシ ナミ	2019/04/01	臨床心理室	公認心理師
村上 雅子	ムラカミ マサコ	2019/04/01	ましきの風	指導員
本多 珠真子	ホンダ スマコ	2019/04/01	法人事務局	事務
竹下 奈都美	タケシタ ナツミ	2019/04/01	法人事務局	事務
渡邊 友起絵	ワタベ ユキエ	2019/04/11	医局	医師
原 悠里子	ハラ ユリコ	2019/05/01	医療連携相談室	精神保健福祉士
平野 智大	ヒラノ チヒロ	2019/05/01	D病棟	理学療法士
西岡 優輔	ニシオカ ユウスケ	2019/05/01	法人事務局	施設
原田 キンシ	ハラダ キンシ	2019/05/07	ましきの風	指導員
坂井 里美	サカイ リミ	2019/06/01	認知症ケア	看護師
佐藤 栄子	サトウ エイコ	2019/06/03	共同住居	准看護師
児嶋 勇樹	コジマ ユキ	2019/06/16	法人事務局	事務



↑新入職員入社式

2019年1月～6月 病院等行事

1月	4日	年頭の式典
	29日	1月職員誕生会
2月	21日	あんふあんビル火災避難訓練
	26日	2月職員誕生会
3月	1日	雛祭りバイキング給食
	26日	3月職員誕生会
	1日	入職者辞令交付式
4月	4日	新入職員歓迎会
	20日	新病院復興記念落成式
	1日	移転
5月	7日	記念植樹祭
	28日	グループホーム「ふるさと」火災訓練
6月	18日	みんなで取り組む院内清掃活動

実習生受け入れ実績

6月 益城町健康づくり推進課等 (20名)

診療実績

単位：人

区 分		H31				R1	
		1月	2月	3月	4月	5月	6月
外 来	外来患者延人数	2,887	2,937	2,968	3,163	2,963	2,819
	(うち新規患者人数)	54	54	47	71	46	51
	平均外来患者人数	103.1	133.5	118.7	121.7	114.0	128.1
入 院	新入院患者人数	32	30	32	29	37	24
	退院患者人数	34	31	33	30	31	29
	在院患者延人数	6,389	5,801	6,384	6,105	6,339	6,202
	平均入院患者人数	206.10	207.18	205.94	203.50	204.45	206.73
	平均在院日数(単位：日)	193.6	190.2	196.4	206.9	186.4	234.0



↑ 益城病院復興工事記念植樹祭(2019.5.6)

編集後記

高層の新病院、周りに桜や楓など様々な樹木を植えようと、職員一同で植樹祭を行いました。感謝の記念碑や銘板に、木々を渡る爽やかな風が吹いて憩いの場になりました。最大の懸念だった引っ越しは、事故やトラブルもなくスケジュール通り、職員の底力が遺憾なく発揮されて大きな歓声と拍手が沸き、無事終了しました。職員への感謝と、多くのご支援を頂いた方々にお礼申し上げます。

(法人理事 田中 洋子)

社会医療法人ましき会

益城病院

MASHIKI HOSPITAL

精神科・心療内科・小児科・歯科

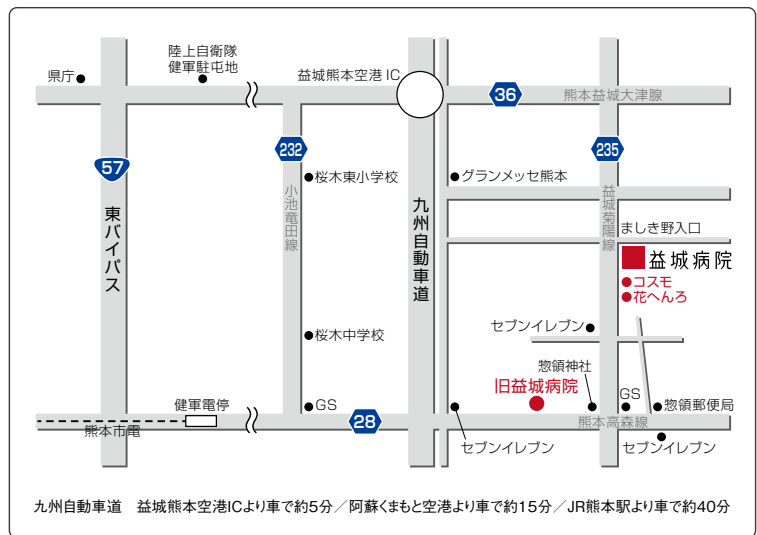
〒861-2232

熊本県上益城郡益城町馬水123

096-286-3611

外来お電話受付時間(月曜～金曜)

午前 9:00～12:00 午後 13:30～17:00



九州自動車道 益城熊本空港ICより車で約5分／阿蘇くまもと空港より車で約15分／JR熊本駅より車で約40分

付属施設

- 熊本県認知疾患医療センター
- 高齢者グループホーム「ふるさと」
- 地域活動支援センター「アントニオ」
- 指定相談支援事業所「アントニオ」
- 訪問看護ステーション

- 居宅介護支援センター
- 就労継続支援B型事業所「ましきの風」
- パン工房まりも、清掃・洗濯作業「クリーンサム」
- 軽作業 あひるのしっぽ、軽食・喫茶「風のテラス」

- 宿泊型自立訓練事業所「コスモ」
- 育児室「あんふあん」
- 犬飼記念美術館
- 「こころと心のミュージアム」

関連施設

- ひろやすクリニック 内科・消化器科・循環器科
- 熊本県上益城郡益城町惣領1530
- TEL 096-286-3636

- 特別養護老人ホーム 花へんろ
- 熊本県上益城郡益城町惣領1670
- TEL 096-287-8706

- 養護老人ホームAKAI花へんろ
- 熊本県上益城郡益城町赤井1800
- TEL 096-286-2075



益城病院

検索

表紙タイトル: Reborn(リボン) 人と人を結ぶ、こころと心を結ぶ。 表紙写真: 「益城病院の新しい夜明け」

撮影: 深見沙緒里 編集: 堀地久美子 発行: 社会医療法人ましき会 益城病院 広報委員会 発行日: 2019年7月25日